

「宝が池の森と水辺の再生・森と暮らすビジョンの発信へ」

ゆたかな生態系の再生に向けさまざまな人・活動をつないでいこう

‘宝が池’の周辺にはかつては田んぼや湿地からなる水辺がひろがり、森はアカマツで覆われていました。南麓には平安時代からつづく‘松ヶ崎’集落があり、人々は田んぼをつくり、森を利用し続けてきました。マツは「妙・法」の送り火に欠かせません。その森はやがて「防空緑地」に指定、後に昭和40年ごろに都市公園となりました。いのちあふれる落葉樹の森は手入れされなくなって様変わりし、近年は、松枯れ・ナラ枯れ、そして、増えたシカによって傷つけられ、森の安全性にかかわるリスクも増大しています。そして池の中は外来種だらけです。森と水辺、そしてそのつながりからなる豊かな風景をよみがえらせたい。森の木々の利用を進め、生態系を再生したい。そして送り火「妙法」を守り伝える文化と暮らしを未来へつないでいきたい！ それを実現するための「学習会」です。

今後の予定〈テーマと日程〉 ＊時間はいずれも 10時～15時半 〈午前：座学・午後：フィールドワーク〉

第4回：2021年10月31日（日）

森の再生にむけて～森のビジョンと再生の手順1

「森・植物をまもる～シカによる被害と対策(仮題)」

●京都大学/農学研究科：高柳 敦 氏

「森の構造と植物の多様性」

●徳島大学/先端技術科学教育部：小川みどり 氏

森を構成する多様な植物が森の姿・個性を創出します、その姿を変貌させ続ける大要因であるシカの影響から森を守る対策と効果を見つめます。

第5回：2021年11月28日（日）

森の再生にむけて～森のビジョンと再生の手順2

「森を若がえらせる～森の手入れの考え方と手法～」

●京都先端科学大学/バイオ環境学部：丹羽英之氏 他

多くの生物がくらす、明るく楽しい‘里山’であり続けるためには、人が適度に手を入れ、常に若返らせることが大切。そのしくみを理解しつつ、森のビジョンを描き実現していくための手順と方法を学びます。

第6回：2022年1月9日（日）

森の再生にむけて～森のビジョンと再生の手順3

「森の基盤を保つ～土壌・水の流れの保持・調整の方法」

●京都大学/農学研究科：柴田 昌三 氏

* まとめのワークショップ～ビジョンの発信とアクションプラン～

劣化が進む森の表土流失を抑え、植物の生育と豊かな森の再生を導くために必要な環境を整えるためには？手法を学ぶとともに、講座を振り返り、宝が池の森での実践方法・協働でできることについて考えます。

歴史ウォーク：2022年3月21日（土）〈予定〉

「宝が池界隈の歴史からみる森の利用と暮らし」

●(株)文化財サービス：吉崎 伸 氏 〈※終日フィールドワーク〉

※日程変更・中止になる場合があります

◆◆◆ 『宝が池の森』保全再生協議会メンバー ◆◆◆

- 京都大学/農学研究科：柴田昌三・高柳 敦
防災研究所：竹門康弘
- 京都府立大学/森林科学科：長島啓子 /環境デザイン学科：福井 亘
- 京都先端科学大学/バイオ環境学部：田中和博・丹羽英之
- (一社)日本生態学会・徳島大学：鎌田 磨人
- 京都大学名誉教授：森本幸裕 ●京都工芸繊維大学：齊藤 準
- 京都宝の森をつくる会 ●(財)松ヶ崎立正会 ●(財)京都市都市緑化協会
- 深泥池水生生物研究会 ●宝が池の森生態系保全再生研究会
- (財)国立京都国際会館 ●京都市

(順不同・敬称略)

※ホームページ：takaragaike.html.xdomain.jp

会場 MAP <子どもの楽園管理事務所* 上高野防災会館>



〒606-0041 京都市左京区上高野流田町8 子どもの楽園内
ACCESS●地下鉄烏丸線「国際会館」5番出口より徒歩15分●叡山電鉄「宝ヶ池」駅より徒歩7分
●市バス5・31・65系統、京都バス10・16・17・18・21・23・41・43系統「宝ヶ池」バス停徒歩約7分

↓↓↓ FAXの場合はこちらをお送りください ↓↓↓

フリガナ	(年齢)	住所
氏名		
TEL:	FAX:	E-mail:

■お申し込み・お問い合わせ

公益財団法人 京都市都市緑化協会 宝が池子どもの楽園管理事務所(担当：野田)
TEL: 075-781-3010 FAX: 075-781-4422 E-mail: rakuen@kyoto-ga.jp